

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

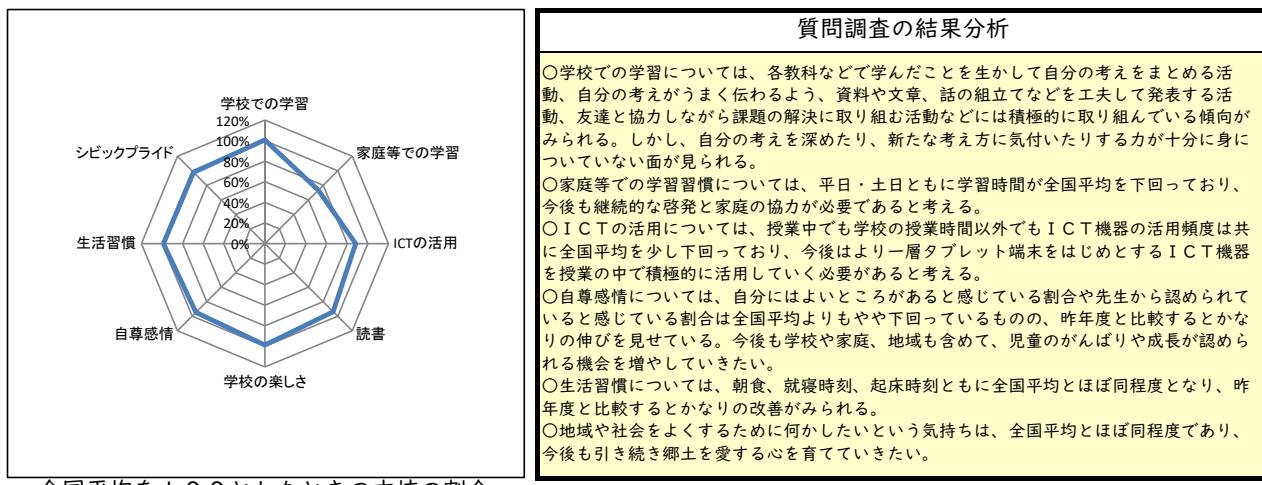
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.9 | 64 | 8.6 | 54 | 9.1 | 53 |
| 全国 | 9.4 | 67 | 9.3 | 58 | 9.7 | 57 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 「知識及び技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力等」に関する内容とともに全国平均正答率を下回っていた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」において課題が見られたが、「情報の扱い方に関する事項」では、全国平均正答率を上回っていた。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に関する問題」「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題」等は、正答率が全国平均を上回っていた。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題」「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題」「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題」等は、正答率が低く、改善の努力が必要である。 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 「数と計算」「图形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5つの領域において全国平均正答率を下回っていた。どの領域にも課題は見られるのだが、その中でも、图形の意味や性質に関する問題、图形の作図に関する問題、単位分数を基に考える問題、分数の計算に関する問題等に多くの課題が見られる。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題」「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題」等は、比較的よくできている。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題」「基本图形に分割することができる图形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題」「分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述する問題」等は、正答率が低く、改善の必要がある。 | |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする4つの領域において全国平均正答率を下回っていた。その中でも「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」において課題が見られる。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「【結果】や【問題に対するまとめ】から土のつぶの大きさによる水のしみ込む時間を予想する問題」「水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けて考える問題」等は、比較的よくできている。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「身の回りの金属について、電気を通す物か、磁石に引き付けられる物かを考える問題」「乾電池の直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかを見る問題」「植物の種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだす問題」等は、正答率が低く、改善の努力が必要である。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各学級においては、学習規律を徹底させ、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるようにする。また、授業においては「めあて・まとめ・振り返り」を確実に行う。特に話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができるような取組に力を入れていく。
- 5校時の開始前の「コグトレタイム」では、各学年の児童の実態に即したコグトレの問題に取り組む。
- 各学年の児童の発達段階を考えながらタブレット端末を活用した授業づくりや、ICT機器を有効に活用した活動に積極的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 毎日学年に応じた内容や分量の宿題を出すとともに、家庭学習（自主学習）の時間や取り組み方について指導していく。また、保護者には懇談会、学校だよりや学年だより等を通して家庭学習の大切さについて啓発していく。
- 中学校とも連携しながら、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間、ゲームをしたり動画を視聴したりする時間や時間帯、使用する際のルールづくり等について積極的に啓発していく。
- 学校では、規則正しい生活習慣の大切さを学級指導や保健指導を通して児童に指導していくとともに、各家庭には「早寝早起き朝ごはん」の徹底について協力を呼び掛ける。